

(別添様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と事業実施計画書及び報告書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 中土佐町立 久礼中学校		校長	堅田 謙洋	教員数	16	児童生徒数 学級数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計		
		道徳教育推進教師	武田 綾	32	1		31	1	34	1									97	4	
研究テーマ		道徳科の趣旨を踏まえた指導方法の工夫・改善と評価の在り方に関する実践研究により、生徒一人一人の道徳性の向上を目指した道徳教育の推進																			
年度当初の学校の状況(5月調査を記載)		到達目標					中間検証(下半期に向けての改善事項)					年度末(2月)		到達目標達成状況							
道徳性に関する現状		肯定%	道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上 ①道徳に対する意識を5ポイント以上向上 ②家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりするを10ポイント以上向上 ③「自分には、よいところがあると思う」を13ポイント以上向上 ④「将来の夢や目標をもっている」を3ポイント以上向上 ⑤「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」を2ポイント以上向上					現状		肯定%											
①道徳の勉強は、すきだ		78.0%						①													
②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている		86.8%						②													
③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む 高知の道徳」を読んだりしている		24.2%						③													
④自分には、よいところがあると思う		67.0%						④													
⑤将来の夢や目標をもっている		80.2%						⑤													
⑥人が困っているときは、進んで助けている		86.8%						⑥													
⑦地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある		78.0%						⑦													
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)										指標達成状況の分析									
取組項目	取組の評価指標	5月～8月					中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)					達成状況		年度末評価						
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆道徳教育推進教師を中心として、各学年の進捗状況を確認する。 ◆年間指導計画・各学年の別業に基づく検証(毎学期) ◆管理職と道徳教育推進教師が毎時間の道徳の授業を参観し、授業評価を行う。	①道徳教育の全体計画(各学年の別業)、各学年の道徳科の年間指導計画の形式と内容を見直して作成。 ②管理職・推進教師が全道徳科の授業を参観できる体制の継続。 ③授業者と推進教師が、事前研究→授業実施→事後研究のサイクルにおいて、短時間で打ち合わせや振り返りができる時間の確保。 ④校内支援委員会において道徳意識調査の結果の分析。						①道徳教育の全体計画(各学年の別業)、各学年の道徳科の年間指導計画の形式と内容を確認。 ②管理職・推進教師が全道徳科の授業を参観できる体制の継続。 ③授業者と推進教師が、事前研究→授業実施→事後研究のサイクルにおいて、短時間で打ち合わせや振り返りができる時間の実施 ④道徳意識調査の結果をもとに協議。 ⑤来年度採択教科書の教材研究。													
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆道徳授業チェック【教師用】【児童生徒用】を3以上にする。 ◆管理職を含む全教員が公開授業・研究授業を行い、町内外に案内する。(16回以上) ◆全教員が道徳に関する研修に参加し、研修内容や助言を授業改善につなげる。	①授業研究を5回実施。(うち2回講師招聘、うち1回全校研修) ②道徳授業チェックの結果及び個人内評価に係る協議・授業改善策の検討 ③学習指導案、構成メモ、授業写真、授業記録、ワークシート等の整理・保管 ④中土佐町全教員が参加する道徳研修会を設定し、町全体として道徳科の授業改善を目指す。						①授業研究を8回実施。(うち2回講師招聘) ②道徳授業チェックの結果及び個人内評価に係る協議・授業改善策の継続 ③学習指導案、構成メモ、授業写真、授業記録、ワークシート等の見直し ④他校の公開授業への参加(2回、計4名)													
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆道徳連絡カード(評価票)を毎学期末に作成し、道徳科の学習状況や生徒の成長の様子を個人面談で保護者に伝える。 ◆自尊感情・自己有用感を高める取組や学級経営とリンクさせた評価を研究する。	①「校内支援システム」(いいところ見つけ)を活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、道徳連絡カードを作成する。生徒の自己評価を記入し、個人面談で保護者に伝え、保護者からのコメントを記入してもらうといった流れの中で、生徒の自尊感情・自己有用感も高める。 ②道徳ファイルを活用し、道徳性に係る成長の様子を把握する。						①「校内支援システム」(いいところ見つけ)の分析と見直しを行い、学期末に発行。 ②道徳ファイルを活用し、道徳性に係る成長の様子を把握を継続する。													
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆学校便り・学級通信・道徳通信で授業の様子、取組、成果、生徒の意見、道徳教育ハンドブックの内容について発信する。 ◆全学級公開による道徳参観日を実施し、実施後のアンケート回収率を60%以上にする。	①全学級公開による道徳参観日において保護者参加型の授業を行う。(6月) ②「高知の道徳」を参観日や懇談会で活用(全学年) ③道徳の授業の様子や「高知の道徳」の内容を各通信で発信する。 ④道徳連絡カードを通じて得た保護者からの意見を取りまとめ、分析する。						①道徳の授業の様子や「高知の道徳」の内容を各通信で発信する。②道徳連絡カードを通じて得た保護者からの意見を取りまとめ、分析する。													

※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)